

平成 30 年度アドバイザー派遣事業実施レポート

学び合いを楽しみ、深める算数授業づくり研究会

1 期 日 平成 30 年 6 月 12 日(火)

2 場 所 鳥取市立日進小学校

3 研修内容

(1) 研修テーマ

つながり合い学び合う子どもの育成

～学び合いを楽しみ、深める算数授業作り～

本研究会では、ペア・グループ学習を積極的に取り入れ、あたたかい共感的な学級経営を基盤とした算数科の授業実践を積み重ねてきており、「算数が楽しい」「友だちと教え合いながら学習することが楽しい」という児童が増えてきている。これまでの研究の充実をめざし、つながり合い、学び合う場面を設定した授業展開の工夫をしていくことで、話し合い活動を取り入れた学び方の定着、伝え合う力の向上、さらには確かな学力の向上につながると考え、本テーマを設定した。

(2) 指導助言者

横浜国立大学人間教育学部

教授 石田 淳一 先生

(3) 授業公開

○算数 3年 「かくれた数はいくつ(1)」 ※別紙学習指導案参照

○算数 5年 「小数÷小数」

○算数 6年 「分数×分数」



学び合い



(4) 指導助言

〈全体にかかわること〉

- ・めあては、学習の流れの中で自分たちから出てくるとよい。出てくるような流れが大切である。
- ・グループで話し合う時だけ机を合わせるのではなく、グループの体形のままで一人学びができるようにし、分からないときにはすぐにきき合ったり教え合ったりする関係を築き、グループで育てていくようにする。
- ・まとめは、子どもの発言をつないで作ったり、穴あきの文章をうめていって作ったりしていく。一人で作ったまとめが、つないでいくことでだんだん詳しくなっていくとよい。文章にするだけでなく、学習した問題に似た問題作りをしてもよい。
- ・適用題に工夫が必要である。その時間の学習で必要なところを中心に作り、それ以外の部分はあらかじめ示してもよい。
- ・話し合いが活発な学級を見合う時間を設け、学校全体に広げていくとよい。



〈3年〉

- ・問いを作る活動は良かった。
- ・基本的な問題で手があまり挙がらないときには、短い時間（15秒ほど）近くの人と相談する時間をとり、みんなで答えられるようにする。
- ・子どもに説明させる場合は、練習が必要である。1回目は、教師と一緒に、2回目は穴あきのワークシートを使って、3回目は練習を真似て自分で書くなど、段階を踏んで指導する。また、友だちの説明の仕方を聞いたり、互いにつないだりして説明の仕方を一緒に考える活動もよい。
- ・テープ図や線分図の指導は、まず教師がかくのを見る、そして子どもにたずねながら一緒にかく過程をふむ。また、「部分」と「全体」の関係を教える。

〈5年〉

- ・問題提示に工夫がありよかった。
- ・全体共有の場面では、算数的にその説明がよかったか検証することが必要である。
- ・全体で進めるところとグループで進めるところを考え、学習の流れを組む。

〈6年〉

- ・グループでの話し合いでは、問題作りをし、互いに解き合い、検証する活動でもよかった。
- ・自分たちがしていない方法をグループで話し合う活動を入れると、互いの話をより聞こうとし、「分かる」学習につながってくる。

4 研修の成果

- 石田先生に授業に介入していただいたことにより、教師はペア・グループ学習の具体的な導入の仕方や発問の仕方、児童は周りの友だちを意識した発言の仕方や教え合いについて学ぶことができ、児童の学び合いの質の向上や授業展開の工夫の一助となるものが得られた。
- みんなで「分かる」学習をめざし、温かいかわりのできる学習集団の形成を学級経営を土台としながら算数科の学習の中で目指していくことが再確認できた。互いにつながり合い学び合う姿や課題解決に向け主体的に学習に取り組む姿を見合い、学校全体に広げていくよう助言をいただいたことを今後実践していく。
- 導入の工夫やめあてへのつなげ方、焦点を絞った適用題の提示の仕方など、学習内容の理解と定着につながる指導をいただき、改善点が明確となった。